

学級通信を生かした学級経営

～ パソコンの効果的な活用を通して～

北斗市立大野小学校

教諭 佐々木 朗

いつからだったろう。苦手だった作文を書くことが、億劫さが全くなかったのは。

今年 1 年生を持ってがんばっていることがあります。学級通信を毎日書いて、子どもたちの様子や学校の様子を保護者に伝えることです。学級担任を持つのも久しぶり、まして小学校 1 年生を受け持つのは 17 年ぶり位です。生活科をやるのも初めてというように、不安な中で、私の学級経営が始まりました。大野小学校の一年生は現在 47 名。学年 2 クラスで、私は 24 名の児童を受け持っています。

入学して何日かは、子どもたちは午前の 2 時間、3 時間の勉強をして給食なしで帰



ります。子どもたちが帰った後職員室に戻ると、しばらくの間、ボーッとした状態。たった午前中の何時間ですが、くたくた状態でした。

そんな状態もいつしか慣れて、子どもたちと手つなぎおにをしてもリレーをしても、子どもたちが帰った後は、快い疲れで、採点業務、分掌の仕事などをこなしてきました。その放課後の仕事の中の一つに「学級通信を書く」ということも私のこの一年の大切な時間となりました。

パソコン様様

冒頭、作文の大嫌いだった私が文を書くのが何とも思わなくすらすら書けるようになったことを述べましたが、それは、何と言ってもパソコンとの出会いがあったからです。

私が大学に入った昭和 54 年は、まだこの世に日本語ワープロはありませんでした。（「見たことはありませんでした」の方が正確かな）私とコンピュータの初めての出会いは MZ80。シャープのマイコンです。BASIC 言語を読み込ませて、そこからスタートでした。そして、名機 PC-8001。NEC のマシンです。このマイコンは、芯までしゃぶったという表現がぴったりする位、BASIC からマシン語から、内部の ROM 構造まで私を楽しませてくれました。プログラミングやコンピュータの基礎の基礎はこのマシンで身につけました。

ちょうどその一世代あとに、PC-9800 シリーズが出ました。初めての 16 ビットマシンで、処理能力もアップしたことと、さらに漢字が出るということに驚きを覚えたものでした。プリンタも当時は 16 ドットでブツブツの漢字でしたが、当時 20 万円以上したドットプリンタもあこがれでした。

そんな中、私が始めて触った日本語ワープロが NEC のものでした。大学の先生に連れて行ってもらい NEC の函館の会社で触らせてもらいました。数百万円という値段だけは今でも覚えています。

ワープロに巡り合ったものの、自分の手にするにはこの後だいぶ時間がかかりますが、「すごいことができるもんだ。いつかは私の大切なツールの一つにしてやる。」っていうことは学生ながらに思いました。

教員のスタートは日高の山奥。「パソコンってなあに？」に似た世界でした。ワープロなどはもちろん買えませんでしたので、手作りワープロ(BASIC でワープロを作っちゃったんです。当時はまだ、頭も冴えていてたいしたことをやれたものです)で、仕事に使いました。もちろん周りからは、「こんなこともできるんだ。でも字がブツブツだなあ。」などといわれました。当時は、手書きから、カナタイプの時代でしたから。

それから何年かして、感熱のプリンタ付きのワープロが十数万円で販売されるようになりました。私は最初にそれに飛びついた部類の一人です。

タイピングは大学時代から鍛えていたので、まさに「水を得た魚」で仕事にバリバリ使いました。職場の同僚も買う人がだんだん多くなって、しだいに学校現場にもワープロ専用機時代がやってきました。

でも、ある時壁にぶちあたりました。きれいにキーボードを見ずにタイプするのを見たのです。それまでの私は、打つ速さは誰にも負けていなかったのですが、何も感じていなかったのですが、その見事な手の動きに打ちのめされたという気持ちでした。いくら自己流で速くても正確な指使いをしている人にはかなわないということを理解しました。

その年の夏休み、私は、ブラインドタッチを練習しました。今までキーボードは見ていたものの速く叩けたのが、キーボードを絶対に見ないで打つと、指で手探りの状態です。一週間位は、イライラの状態でしたが、それを過ぎると次第に打つ速度も上がってきました。こうやってひと夏で何とかブラインドタッチを習得することができました。

ぜひ正確なタイピング習得を

私は、子どもたちが小学校 4 年生になったら、キーボードの打ち方を教えるのがいいと思っています。なぜなら 4 年生でローマ字を学習し、教科書でもローマ字はパソコン入力でもよく使われることが紹介されているからです。

それまでの学年には、カナ打ちはさせることなく、文字入力が必要な場合、ソフトウェアキーボードを使うのが正しいと思います。なぜかというと、カナうちに慣れてしまうと、ローマ字打ちが億劫になってなかなかきちんと覚えようという気持ちが出てこなくなると思われるからです。

4 年生でもできれば少し多めに時間を取ってキーボードの練習をさせてほしいと思

います。子どもたちはまだローマ字があやふやでしょうから、ローマ字表のマウスパッドや早見表を近くにおいておくと、安心して、練習することができます。

短い手紙をイントラメールでやりとりなどすると、夢中になって学習に励むと思います。あまりブラインドタッチを無理強いすることなく、しかし、少しずつ慣れていくことを十分ほめてあげながら、授業を進めてほしいと思います。

大人になってからでは、私は手遅れに近いものがあると思います。ある程度の速さで打てて、仕事上、それで支障がなければ、あらたに、イライラしながら、ブラインドタッチを覚える必要観がないと思う方が多いものです。私も同僚の先生方に、見ないで打つことを勧めると、「すごいねえ。」とは言われますが、「じゃあ、自分もがんばる。」という声をなかなか聞くことができません。特にこれから活躍する方には、ぜひ習得してもらいたい技能です。

練習ソフトもたくさん出ているので、先生方も長期休業で取り組むいい研修課題ではないでしょうか。

学級通信と私

「学級通信は何のために書くのか。」私は、子どもたちの様子や教師の教育方針を保護者に伝えるためと押さえています。連絡事項もあるでしょうが、最初に述べたものの方が主なる目的と押さえています。

若い頃、いろんな本を読んで学級通信の書き方を勉強しました。ほとんどは、絵が入って、レイアウトがうまくされているきれいな学級通信でしたが、中身の文章で勝

負というものがありました。「自分は絵とか、レイアウトとかあまり得意でないから、とっつきづらいかもしれないけど、文章で学級の様子を伝えよう。」と思い、今のような三段組みの学級通信にしてみました。

この形式で初めてつづったのが「ひかり」。その後、「さくらんぼ」、「未来への誓い」などを綴ってきました。



美しい文を書こうとしない。思ったことを素直に書く。そういう方針でほぼ毎日、学級であったことや、自分が教師として感じたことを書いてきました。だいたい一つの号は原稿用紙にして3枚位になるのですが、続けていると文を書くことに抵抗を全く感じないようになりました。私が文を書くのに慣れたということもありますが、先ほど書きましたようにパソコンを使っているからだということも大きな要因です。思ったことを、鉛筆を持って人に読んでもらえる位の字の丁寧さで書くと結構な時間がかかります。でもパソコンだと頭の中の思考とほぼ同時に手が動いて画面上で文字になってきますので、とても便利です。さらに削ったり、足したりも自由です。

私は当時いた同僚の先生から、冊子にすることを教えてもらいました。児童に渡す2倍を印刷しておき、それをストックして



おきます。最終号を出し終わった春休みに、丁合をして、印刷屋さんに出して、製本してもらいます。今から20年近く前の学級通信集ですが、こうやって手元に残っています。今となると自分の財産の一つになったなあという思いです。

学級通信「ひばり」

今年度は一年生の学級担任。冒頭述べましたように、責任の重さをずっしりと感じながらも、明るく素直な24名の子どもたちと毎日楽しく過ごしています。今冬休みですが、ゆっくりこうやってレポートを書いたり、指導計画を立てたりと、デスクワークはたくさんできますが、子どもたちがいないとちょっと寂しいというのも正直な思いです。

今年の学級通信の名前はひばりにしました。学年を組んでいる先生と「鳥の名前にしようっか。」ということで、2組は「フクロウ」、そして私の1組は「ひばり」と名付けました。こじつけかもしれませんが、第3号でひばりにした理由を次のように述べています。「ひばりは舞い上がりながら、さえずり、その声は遠くまで響き渡ります。体長17センチメートルほどの小さな鳥で

すが、力の限り、さえずり、羽ばたいている感じがします。子どもたちも、この「ひばり」のように、小さな体でも、大きな夢と希望を持って成長するよう、願っていきたいと思います。」と。

先ほども述べましたが、私は学級通信には、連絡事項をほとんど入れません。保護者がきちんと押さえておかなければならない「持ち物」や「集金」などは、学年通信でお知らせしています。ですから、私は、「ひばりは時間がない時は、読まなくてもいいけど、せせらぎ(学年通信)は必ず目を通してくださいね。」と保護者には言っています。

わたしは、「ひばり」の中で、20年以上教員をやってきた経験に基づいて、子育てのこと、子どもの心理状態、ほめる、しかる、しつけるなど、子どもの日々の教育を通して感じたことを綴っています。また、子どもたちの生き生きとした、そして、ほんのちょっと心温まる話を載せるようにしています。

今まで、ほぼ毎日綴ることができました。でも、「絶対毎日書き続ける」などという頑強はものはありませんが、日々子どもたちと過ごしていると、新しい発見の毎日で、そんなことを綴り続けています。話のある時は、一日に何枚も書いてしまうことがあって、2学期終業式で196号まで出しました。幸い隣の組の先生も学級通信を毎日出しているの、私としてはとても気が楽に出すことができます。

保護者の反応ですが、私から、「毎日読んでいますか。」など尋ねたりすることは押しつけがましくてしません。でも、懇談会などでお会いすると、「毎日読んでいますよ。」

「家族みんなで目を通しています。」などという言葉をもらすと、書いていてよかったなあと思います。保護者とも、言いづらいことでも、楽しいことでも、ためらうことなく、話ができるいい関係が保たれているのではないかと自分自身思っています。これも、子どもたちの普段の様子をつたえている「ひばり」があったというのも一つの要因だと私は思っています。



若い先生方へ

ほとんどの先生方は、週の最終日に次の週の予定を入れながら、学級通信を出しています。次の週の予定を入れて「あと、どうやって埋めよう。」などという話を聞くことがあります。なかなか通信を書くというのはたいへんなことだろうなあと思います。私は、子どもたちの様子やそれを指導する先生の教師観みたいのをちょっと入れればいいんじゃないかなあなどということもあります。

私は、若い先生方に、「学級通信は大事なものだから、毎日出した方がいいよ。」などとアドバイスする気持ちは全くありません。書くことが苦痛になったり、それよりも教材を作ったり、分掌の仕事をしっかりやった方がいいからです。でも、こうやって毎日、思ったこと、感じたことを綴ることは、自分自身を振り返ることにもなり、一つの学級経営のやり方だとは思っています。

いつだか、学級通信に「みんな違ってみんないい。」という金子みすずの詩を紹介したことがあります。先生方にも一人一人個性があります。それぞれの良さがあります。

諸先輩からいろんなことを学ぶ謙虚さを大切に、決して自己流になることなく、だんだんと自分なりの学級の持ち方を工夫して、いい学級経営ができるようになればと思います。私自身もまだまだ、勉強段階ということで、周りの先生方のいいところをちょっとずつ「盗み」ながら、子どもたちの健全な成長のため、日々の実践を大切にしていきたいと思っています。

学級通信ひばりは、ネット上にあります。ただし、子どもの名前や写真などもありますので、パスワードをかけています。アクセスを希望の方は、連絡ください。

ホームページ

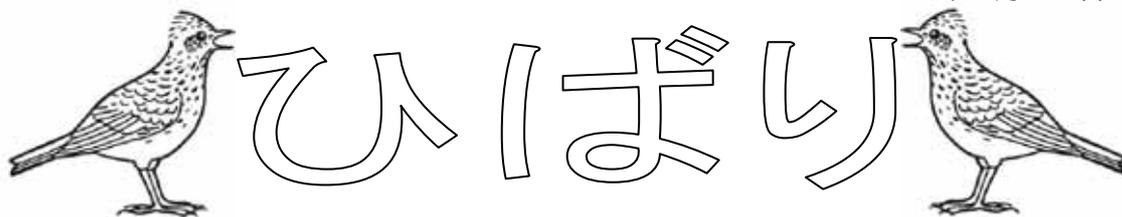
<http://www.edu-hakodate.jp/sasaki/>

メールアドレス

asasaki@edu-hakodate.jp

大野小学校1年1組 学級通信 第28号

2007年5月25日



配膳はGOOD、下膳がNO GOOD
 着いていないことが感じられます。
 牛乳パックを洗って、歯みがきをしていたら、本を読むなり、静かに過

ごすことがまだ徹底しているとは言えません。
 戦を練りながら、よりスムーズ

給食当番も二週目に入っている
 な配膳、下膳を目指します。

児童も多く、私はだいぶ楽になって
 尚、好き嫌いですが、量も関係して
 きています。子どもたちの盛り付
 ているのですが、残す子は多いで
 け、そしてお盆をもって並ぶ方も
 す。でも一つほめてあげたいのが、
 ムーズに行っています。給食当番の
 「食べ物に感謝する気持ちで、一口
 は前の週の給食当番がやってくれ
 てもいいから食べなさい。」と指導
 ますし、準備は述べたようにとても
 早いです。
 のでも一口は食べるんです。「よし、
 えらいよ。後は無理しないで残して
 いいからね。」と指導しています。

ところが、下膳に苦労していま
 文字の練習
 子どもたちの字はうまくなって

たりという具合です。表面的には、
 きていると感じます。ご家庭でもじ
 「誰が仕事をしていないんです
 つくり手本を見て指導している成
 か。」ということで指導しますが、
 果もあるかと思えます。ありがとう
 その背景に、子どもたちの心が落ち
 ございます。

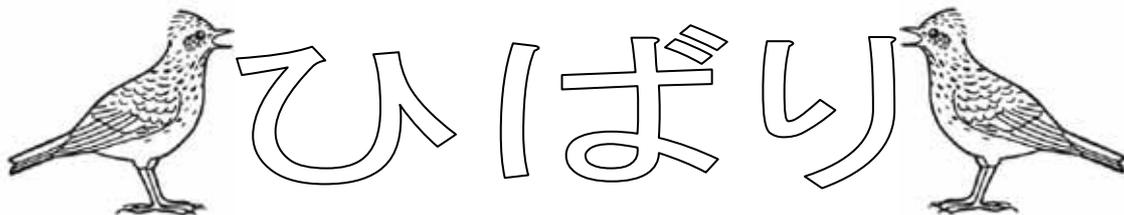
まるつけは、私に提出してもいい

ですし、ご家庭でつけていただいで
 それで終わりでもいいです。できる
 だけ家庭でもやってほしいですが、
 お子さんの状況に合わせて、プリン
 トを利用していただけると幸いです。

子どもたちの字がうまくなって
 くれればいいと思っていますので、家
 でやったのの提出チェックなどは
 していません。



大野小学校1年1組 学級通信 第151号 2007年11月9日



町の子どもたちをおなかいっぱいにさせるラーメンバス

国語の働く自動車では、バス、コンクリートミキサー車、ショベルカー、ポンプ車が登場します。説明文は論理的な文章構成になっていますので、その構成の仕方に基づいて子どもたちにも、教科書に登場する以外のはたらく自動車について、子どもたちに作文をさせました。子どもたちに指示した文章の構成は次の通りです。

は、~~~~~じどう車です。ですから、~~~~~います。S.C. タクシーは、おきやくをのせじどう車です。ですからじどうどあがついています。S.M. れいとう車は、アイスやシャベットをはこびます。ですから、なつとかに、とけないように、大きなれいぞうこがついています。F.M. きゆうきゆう車は、けがをした人たちをのせてはしるじどう車です。ですからベッドをのせています。I.S. みしゅうじゆう車は、ゴミをはこぶじどう車です。ですからうしろに大きなこみたいなものがありません。S.W. パトカーはわるい人をつか

まえるじどう車です。ですから、てっぽうやてっぽうのたまをもっています。

S.M. ラーメンバスは、まちのこともたちをラーメンでおなかいっぱいにさせるじどう車です。ですからキッチンがついています。I.S. ゆうびんバイクは、ゆうびんをはこぶじどう車です。ですから、大きな手紙箱があります。S.W. パトカーはわるい人をつかまえるじどう車です。ですから、あかいライトをちかちかさせて、おいそぎでじけんのげんばにいきま

す。全員のを載せてあげられなくてごめんなさい。全員が、題意を理解して、少なくとも一つ、多くて四つぐらいの車について、まとめていました。中でも、「すごい」と思ったのがS.M. 君。早い話、君、他の子のほとんどが例として私が出したはたらく自動車を使っているのに対し、想像することもないような車を登場させました。ちなみに彼はもう一つ書いていますが、それはレーシングカーです。さらに驚いたのが、町の子どもたちをラーメンでおなかいっぱいにさせる」というところです。子どもたちに幸せを運ぶ車とし

てラーメンバスをあげています。さらに私が感動したのは、「町の」というところです。この二文字で見事に情景が浮かんできます。とても文学的な要素を感じさせます。すばらしい作品です。

私は、全員のノートに目を通しながら、限られた時間で、ノート二ページにも三ページにも渡って、自分で考えた文を作る力が子どもたちについてきたんだなあという感動がありました。

子どもたちの作文から

きょう、ぼくはえいこのせんせいがかかるのをたのしみにしていました。なまえはキャサリンせんせいで、としは27さいです。とてもわかつたです。またキャサリンせんせいにきてほしいです。

せんせい、あのね、きょう、五じかんめに、わたしは、えいごがはじめてだったけど、一ばんたのしかつたのはね、おさるさんをだつこしたのと、なまえをゆつたことと、なんさいつてもきかれたことでした。あと、おどりや、うたやむずかしかつたけど、おもしろかつたよ。また、キャラソン先生がきてくれて、えいごをおしえてください。

大野小学校 1 年 1 組 学級通信 第 1 4 4 号 2 0 0 7 年 1 1 月 2 日



ひばり



ちゃんの上がり

今日は、昨日に続いて、とつてもうれしいことがありました。

さんが逆上がりをすることができたのです。教員をやっている二日も続けて感動的な場面に出会えるなんて、なんて自分は幸せなんだろうと思いました。

学習発表会前から一年生は、鉄棒に取り組んでいました。私達の子どもたちに与えた課題は、前回り、足抜き、そして逆上がり。一年生は逆上がりは必須ではありませんが、小学校での鉄棒の一つの「山」ですから、できるだけがんばらせたかったという願いもあります。

鉄棒を始めてから、子どもたちは、休み時間に鉄棒の回りに集まるようになつてきました。いつも来る子、時々来る子、もう逆上りを楽しんでやる子、足抜きにも苦労している子、子どもたちの休み時間はいろいろです。

私は、必ず休み時間は外に出ていますので、子どもたちの練習の様子がよくわかっていきます。

毎日欠かさず来るのは女子が多かったのですが、その中でも、さんを鉄棒のところに見かけなかった日は一日としてありませんで

した。つまり、学校に来て外で遊べる日は全て練習していたことになります。

最初の頃は、足が鉄棒までいくのもたいへんでした。学習発表会が終わった頃になると、両足が鉄棒まで来るようになりました。その足を私がおほんのちよつと手を添えてあげると、すつと回れるまでになりました。あと、ほんのちよつとです。

さんにも、「できるのは、明日か明後日、もうほんのちよつぴりだよ。」と足の上げ方、手の引き方のコツをアドバイスしました。この一週間位は、私にとつても、いやさんにとつてもはもつともどかしい日々だったと思います。

それを脱却したのは、昨日でした。一度自分の力で回れたそうです。私は急ぎの用事があった、それを見ることはできませんでした。そこで万歳することはしないで、やっぱり担任の目の前で回るといふことを大切にされたので、「今度は先生の前で回ってみて。きつとできるから。」と話しました。

そして今日十一月一日、私の目の前で、さんが逆上がりを見事しました。それも三回も続けて。私は、嬉しくて嬉しくて、さんを抱き上げていました。

たかが逆上がり、されど逆上がり。彼女にとつて、このことは、「やればできる。努力は嘘をつかない。」つていうことを自分の体で覚えたに違いありません。私が高校時代「け上がり」で学んだと似たようなことを今回の逆上がりで学んだこととしよう。そして、これからの小学校生活にも、きつとがんばるつてこの糧になるに違いありません。

さあ、もうすぐ初雪の季節。でも外で遊べなくなるまで、外遊びにお付き合いたいと思つていきます。「先生、できた！」つて笑顔をこれからも楽しみにしていきたいと思つています。

子どもたちの作文から

きょう、せんせいがいよくいんしつで、そうだんしているとき、みんながそうじているとき、ぼくは、なにしているかわからなくて、やつとわかつて、ぞうきんで、ゆかをつゆがこぼれていたからふいて、きゅうしょくとうばんだからきゅうしよくだいをふきました。ぼくはちよつとえらくなつてきました。